

アサ花粉の同定とその散布

Identification of *Cannabis sativa* L. Pollen and Its Dispersion

吉川昌伸・工藤雄一郎

YOSHIKAWA Masanobu and KUDO Yuichiro

はじめに

- ① 現生アサとカラハナソウ属花粉試料と分析方法
- ② アサ花粉の散布調査と分析方法
- ③ 結果
- ④ 考察

【論文要旨】

アサ果実は縄文早期中葉以降に出土しているが、果実は利用のため生育地から移動する可能性があるため、栽培場所は花粉も含めて検討する必要がある。日本に分布するアサに近縁な分類群には、カラハナソウ属のカラハナソウとカナムグラの2種があるが明確な花粉形態の違いが認識されていなかった。そこで、光学顕微鏡を用いた花粉形態の観察と、画像から各部位を高精度で計測した結果、内孔長/赤道長比と口環部外壁厚/赤道長比の関係に基づきアサとカラハナソウ属はほぼ区別できることが明らかとなった。内孔径/赤道径比が約0.105以下のタイプ、つまり孔が赤道径に対し相対的に小さなタイプはアサである可能性が高い。アサとカナムグラの中間的な形態の花粉は、アサの殆どが内層を外層が僅かに貫くのに対し、カナムグラの殆どが内層の位置で止ることによりほぼ識別できる。この識別結果に基づき、アサ花粉の散布を明らかにすることを目的に空中浮遊花粉と表層花粉を調査した結果、アサ花粉の大半が散布源から50 m以内に落下することが明らかになった。これは散布源の高さが2~3 mと低く、風が弱い場所が栽培に適しているためであり、本研究の散布過程の観察結果が過去にも適用できると考えられる。

【キーワード】 アサ花粉, アサ花粉の散布, 花粉形態, 空中浮遊花粉, 表層花粉スペクトル